令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	<b>唐津市立成和小学校</b>

速成度 (評価)A: 大沙達成できているB: おおむね達成できているC: やや不十分であるD: 不十分である

前年度 評価結果の概要

・金融員で重点目標、取り組み内容及び現状・腰層等を共有して実験を図ったことで、PDCAサイクルにそった組織的な取り組みができたことは成果である。次年度の計画に当たっては、今年度の成果と腰層を踏まえて、実効性のある具体的な取り組みや成果指摘を設定する。
・コロナ禍にあり、様々な教育活動の実験に影響があった一年であった。次年度もまだまだコロナ禍の現状は繊維することが予想されるので、それを踏まえてコロナ禍にあり、様々な教育活動の実験に影響があった一年であった。次年度もまだまだコロナ禍の現状は繊維することが予想されるので、それを踏まえてコロナ禍にあり、様々な教育活動の実施で表見様の変化を表している。
・「学力の向上」に関しては、コロナ禍の現状を踏まえて、「主体的、対話的で深い学び」の視点に立った要素な著と指導方法の工夫に取り組んでいく。
・次年度も引き教き宣真目標として「不要校を生まない学校づくり」に取り組んでいく。現まながら不要技領向の児童は対象の傾向にあり、早期発見・組織的な対応について一層の取り組み強化を図っていく。
・次年度は、新型コロナウィルス感染とグラスター発生を防ぐことを「程度・体づくり」の重点として取り組んでいく。
・次年度は、新型コロナウィルス感染とグラスター発生を防ぐことを「程度・体づくり」の重点として取り組んでいく。

「HEART」,「POWER」,「CHALLENGE」 一あたたかく 力強く 目標にチャレンジする子どもの育成一 【心をひとつに「チーム成和」】

①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導方法の工夫・授業改善に取り組む。②不登校を生まない学校づくりに取り組む。③いじめ防止と早期発見・早期対応に向けた体制づくりに取り組む。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価											
(1)共通評価項目										主な担当者	
	評価項目	重点取組取組内容	成果指標	具体的取組	進捗度	中間評価 進株状況と見通し	達成度	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
	11 10 4 H	<ul><li>◆全職員による共通理解と共通実践</li></ul>	(敷値目標) ●学力向上対策評価シートに示したマ	・課題解決に向け、複数意見からまとめ	(評価)	<ul><li>マスク着用を徹底させて、グループでの話合</li></ul>	(評価)	・タブレットを活用して、個人の意見を集約し、	8+1M	<ul><li>コロナ禍による懸念はあるものの、現在でき</li></ul>	
●学力の	向上		イブランの成果指標を達成した教師8 0%以上	るような全体での話し合い活動の場を仕組む。	В	いを取り入れている。また、タブレット端末を活用した話し合い活動も取り入れているところである。	A	全体で共有した。それをもとに話し合いを活性 化することができた。 ・グループでの話し合い活動を多く行うことは できなかったが、全体で感想や意見を交流す る時間を多位変更した。 ・学力向上対策シートに示したマイブランの成 実指揮速成率80%。数値目標を達成すること ができた。	A	ることを取り組んでいる。	学習研究部 学力向上CO
		●児童生徒が、目他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 親や正義感、感動する心など、豊かな 心を身に付ける教育活動	○直接授業の充実に努め、自己肯定感を感じる児童を80%以上にする。	・担任順で、教材の選定や指導の流れ 等、遠徳授業の専制打ち合わせを行う。 ・各授業の指導過程に「交流(対話)」活 動を取り入れる。	В	・前年度までに作成した根示用の挿絵やワーケシー等のセットを活用して従来を行った。 ・担任同士で事前打ち合わせをすることで、指 導の内容やボイントを確認することができた。 ・できる範囲でペアやグループによる交流活動を取り入れた。	A	・タブルッを活用して、個人の意見をカードに 割いて送り会し、考えを交流することができ た。全体でも共有することができ、それをもと に試し合いが活性化した結果、個人の考えを 深めることができた。 ・担任町上で事前打らわせをすることで、指 導の内容やボイントを確認することができた。 教料との関連や児童の実態を考慮して、指導 する単元の関連や児童の実態を考慮して、指導 する単元の限金とれ替えた。	A	・児童のを育む道徳の授業は、重要であ る。コロ十級の中、これまでには異なる手立て をとって、意欲的に道徳教育に取り組んでい ることは児童の道徳心を身に付けることにとっ ていいことだと感じる。 ・家庭への広報を通して、家庭でのしつけの 大切さを伝えてはどうか。	学習研究部 道德担当
●心の教	育	●いじめの早期発見、早期対応体制の 充実	いじめをのにする。	・毎月、心のアンケートをとり、実態把握を行う。 を行う。 ・気になることは、担任、牧長、教順、生 活指導担当、実養動館などでチームを 作り、学校として解決に当たる。	В	・アンケートを活用し、担任による児童との面 誘の機会を対けることができている。 ・気になることや担任からの相談には、組織 的対応を心がけることができている。	В	・風のアンケートや学校のアンケートを活用 しいじのの早発を目前の対象を行うこと ができた。アンケートの内容を相関通じるが いくことで、気になの理の様子を機械的に 見守ることができた。 ・かや思いやりの実持らを育む指導に努めて いる職員100%しかし、いじかのない過ご レットリー学校とあない思想。1998、「学校 は、いじめ防止の早期発見、早期が応に努め にいるに関するといなど思わない。 も、児童の見守りや保護者が1988、これから も、児童の見守りや保護者との連黙に、掲載 が日本別を記していると思わない、と思から も、児童の見守りや保護者との連黙に、掲載	В	・張越書の恵見を学校運動に生かすために、 リモートを活用、オンライン画像やオンライン アンケートなど取り入れてみてはどうだろう ・児童がSOSを出しやすい環境であってほし し。 ・しいの早期発見・早期対応などの取組については、どれだけ取り組んでも分だとは 富えないが、アンケートなどを行いなから継続 した歌館が必要だと恋しる。	生活部
		○不豊敬を生まない学校づくり	に取り組み、学校の一員として、集会活動に取り組み、学校の一員として、集会活動に取り組むことができたと回答した児童が75%以上	- 集会に向けて、児童が密敬的に参加 することができるような話し合いの場の 設定。 - 集会に関する振り返りアンケートの実 態。	В	- コロナ部級除止をのかけながら、工夫をして 年生を担える。平和集金、GTD集会など 実施できた。 ・新型コーサウイルスの流行によりできていな かつた異学年文流を行うため、学館での話し のは後、代表要員をご動物のを送かれた。そ して、学紙でどに役割を持った。全校ウォーク リーを実施した。 ・全体での集会活動はできないことも多かった 、学年や学継載やロ歌り場んだ事会活動が、 ・第45年の第一条第15年の第一条第15年の第一条第15年の第一条第15年の第一条第15日できないことも多かった。 のまた、学年や学継載やロ歌り場んだ事会活動に ・1、3・79年、番り返りアンケートを実施	A	- コロナ部条除止をのがけながら、工夫をして 年生ありがとう集会などを実施した。 年生ありがとう集会などを実施した。 6年生ありがとう集会では、代表委員会での 話し会いをすることはできなかったが、「6年 生に感謝の気持ちを元えるいとり目標に向 かつて、それぞれのクラスごとに児童が主体 的に活動することができた。 - 集会に関する無り返りアンケート調をでき体 的に取り締むことができたと回答した児童9 3%。	Α	・GTC集会は、すばらしい致い組みである。現 室の自己育恵をか自己者用意をあかている と感じる。また、好ましい人間関係の離点にも 役立っていると感じる。	特活部
			〇早期発見、組織的な対応に努め、不 登校児童を2%以下にする。	・毎月・心のアンケートをとり、実態把握を行う。 ・スクールカウンセラー・やSSWとの連携を を図り、担任、校長、教頭、生活指導担 当、養護教諭などでチームを作り学校と して解決に当たる。	В	○担任は、スクールカウンセラーやSSWとの 連絡を取り含うことができている。 ・登校できたときには、学校組織として対応 に取り組んでおり、学書や活動に取り組むこと ができている児童もいる。	В	・担任は、スケールカウンセラーとの連絡を取り合うことができた。 ・担任だけでなく、養護教諭や級外観員からも 声をかけることにより、児童が気軽に相談を 受けることができた例もあった。 ・現在、不登校児童は、2.4% ・登校できたきの、学校組織として対応に心がけており、学習や活動に取り組むことができた。	Α	- 職員間の児童についての情報交換を大切にして指導・支援にあたってほしい。 - 学校外の専門機関との連携を大切にし、新 しい情報なども積極的に取り入れて活用して ほしい。	生活部
●健康・1	<b></b> \$⊃< <i>\</i> J	●「運動習慣の改善や定着化」  ●「望ましい生活習慣の形成」  ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	母類素以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上  〇衛生検査の実施(各調査項目90%以上)  「個理に食事は大切である」と考える 児童90%以上)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		・学校コンも間の外遊びはよびきている。 砂球肉の裏温が多い、徒歩温子を増やし、体 力の向上に努めたい。 ・持入量やな力とが着きでは持久力の向上に 努めることができた。 ・ポール投げ大空では投げることに関心をも たせることができた。 ・ボール投げ大空では投げることに関心をも たせるとができた。 ・衛生接着と関の以上が違成できている。家 電生接着は日の9以上が違成でさいる。家 には、 ・栄養や食生活の大切さを伝える放送は毎日 できている。	В	・選んですで遊びや運動をしている」と考え、 児童が8936、ドネモもが運動管備を身 に着けている」と考えた保護者が90%だっ 大寒、学地にいる間の外遊びはよべできて いた。しかし、豊牧寺の車道学が多いたか、 終意過学を増一なくすかの身に上がからい。 がある大学がある。 中のマナーがあかり向にかったが、約金 ・「手洗い、マスク海用、食後の温度等の 優が定着」については別意、保護者、教職員 ともに95%以上ができたい。	A	・休み時間には、児童の声がよく聞こえており、外で進んでいる姿が印象的である。	保体部
		●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故をO(ゼロ)にする	導を行う。 ・年に1回、交通安全指導・自転車の乗 り方の指導を行う。 ・低学年では毎日、集団下校を行い、地 区児童会では、全校による集団下校を 行う。 ・安全集会を行い、命の大切さや防犯意 謙を高める。	В	・朝の交通指導を地域の方と協力して行うこと により、児童は、安全を意識して登校している 様子が見られる。 また、無面下校や時間を合わせた下校によっ て、子とも建て力し注意しながら安全に下校す る様子が見られる。 ・交通安全を変っ実施により、交通安全に対 する知識や意識を高めることができた。	В	・朝の交通指導を地域の方と協力して行うこと により、児童は、安全を意識して、登校する様 子が見られた。 ・集節す数や時間を合わせた下校によった 子とも基でうし注意しながらの下校する様子 が見られた。 ・安全集会を行ったことで、児童の防犯意識を 高めることができた。	Α	- 学校長が交通指導をしている姿をよく見かける。 ・ 交通事故については、学校が指導を行い、 児童が十分に注意していたとしても、相手に 最大的る場合もあるか、完全に前ぐこと は難しか、機能した海線は必要である。 ・ 場合としたさは、90%の児童は きちんとあいさつができている。	生活部
●業務改善 方改革の推	善・教職員の働き	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	<ul><li>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</li></ul>	・定時退勤日を設定し、職員に積極的に 周知することで、1週間に1日の定時退 動日を徹底する。 ・職員各自が、毎月の時間外勤務第十 記録を確認しながら、時間外勤務第十 限を(45時間)超えないように勤務時間 の調整に取り組む。	В	・定時退勤日を設定し、職員に周知し、実施し たしたで、定時退勤日に対する意識が高まっ てきた。 ・月により、時間外勤務の集計結果に差が見 られるが、職員各自が時間外勤務の上限を 意識し、業務の取り組み方を考えることによ り、勤務時間の調整ができるようになってき ケー	В	・定時退勤日の実施については、8割以上の 達成状況であり職員の意識も定着してきてい る。	A	・もっとICTを取り入れるべきだと感じる。例えば、連絡帳はオンラインにしたり、授業参報をリモートにするなどを実施していけば、業務改善いもつながると感じる。	教頭
		○勤務時間の適正化	○会議や事務の効率化を図り、教職員が児童に向き合う時間を確保する。 ○定時退勤日の周知を徹底し、実施率 を80%以上にする。	・会議時間の設定や事前の資料配布等を確実に行う。 ・週1回の定時退勤日の徹底と出退勤 システムの活用により、ワークライフバラ ンスを整える。	В	・金鑑資料のペーパーレス化を実施し、会議 に向けての事務の効率化を図ることができ た。・・定時退勤日の周知徹底をすることで実施率 80%を達成することができた。	A	・年間を通して、会議資料のペー・バレス化を 実施し、会議での事務の効率化を図ることが できた。 ・定時退勤日の周知徹底を図り、呼びかけ声 掛けを行うことで目標を上回る実施率を達成 することができた。	A	・もっとICTを取り入れるべきだと感じる。	教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		<b>电影机业</b>	
	評価項目	重点取組内容	成果指標	具体的取組	進捗度	生捗状況と見通し	達成度	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
◎志を高			上にする。 〇児童にアンケートを実施し、「自分の 目標に向かって進んで取り組むことがで きた」と回答する児童を33/64ポイント 以上にする。 〇児童にアンケートを実施し、「掃除や 給食当番、係活動を自分から進んで取 り組んでいる」と呼吸音する児童を33/40 ポイント以上にする。	「ハート」「パワー川チャレンジに関連付 けた支援・指導を行う。 ・児童に達成可能な目標をすてさせ、目 構造成に向ける動きできるう指導や支 接を行うようにする。 ・網路や給金当場・低活動に責任をも ち、充進と協力して活動させ、やり速げ たことを発表する場や認め合う活動を数 定し、自己有用機や自己肯定感をもた せる。	(評価)	・効果式や終果式の節目、全校研会等で、履 様に「学校日標を翻対にした話をしており、現 下行事。本が表現ま想している場合が、 に対している。 では、 に対している。 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、	(評価)	- 学校目標の認知は、接着者37%、児童9 6%であり高い認知の影合であった。 全量前が目前から児童に対して、学校目標 ・ 1 自分の目標に向かって進んで取り線にと ができた」という回い、150%のような、14日から進ん ・ 1 相合の目標に向かって進んで取り線にと と回答し、3、3/4、0ポイントとなって、目標は 違成できた。 ・ 1 指除や放告当番、係活動を自分から進ん で取り組んでいるという問い、157%の児童 が取り組んでいると回答し、3、3/4、0ポイントとなって目標が進成できた。	A	・児童が活動によても機能的で削向きである ことが行動に表すている。 一名と背に悪りを自動をもた。夢に向かってチャ レンジすることは、とても大事なことだと思う。	教頭
〇開かれ	た学校づくり	○家庭や地域との連携	学校教育の情報を公開する。	の更新を月1回以上行い、学校教育の 情報を多方面に発信する。	В	・学校だよりの発行はでき、学校の様子を多 方面に発信することができたが、ホームページでの情報発信の頻度が少なかった。	В	・学校だよりは、保護者だけでなく、地域の 方々にも配布して、情報を発信でき。ホーム ページでの情報発信の頻度がやや少なかっ た。	В	<ul> <li>学校ホームページが重質していない。コロナ 禍の時こそ、ホームページで情報発信をする べきである。</li> </ul>	
	援教育の推進	○特別支援教育の充実	O月に1回以上は特別支援委員会等を 開催し、教員間で情報共有を行い、特別 支援教育の充実に努める。		В	<ul> <li>月1回程度特別支援委員会を開催することができたものの、まだ情報共有が不足している。</li> </ul>	В	- 特別支援委員会を開催することができたが、 特別支援教育コーディネーターや生活支援 員、担任との情報共有がやや不足している。	Α	<ul> <li>特別な支援を要する児童については、職員の総密な連携や情報共有が必要であると感じる。</li> </ul>	教頭 特悦支援教育コーディネー ター

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

**3・・ 選を基めら継票** 全職員で重点目標、取り組み内容及び現状・課題等を共有して実践を図ったことで、PDCAサイクルにそった組織的な取組ができたことは成果である。次年度の計画に当たっては、今年度の成果と課題を踏まえて、実効性のある具体的な取組や成果指標を設定する。 今年度もコロナ禍にあり、様々な教育活動の実践に影響があった一年であった。次年度もコロナ禍の現状は継続することが予想されるので、それを踏まえてコロナ禍にも対応できる具体的取組や成果指標を設定し、教育活動の展開を図りたい。 「学力の向上に関しては、コロナ禍の現状と終まえて、「三体の、対話的で深い学びの収息に立った受棄で悪き上籍す方法の工夫に取組んでいきたい。 次年度も引き続き重点目標として「不登校を生まない学校づくり」に取り組んでいく。不登校傾向の児童は増加の傾向にあり、早期発見・組織的な対応について一層の取組強化を図っていく。 総合評価・ 次年度への展望

【小学校・中学校・義務教育学校用】

様式1(小・中)